

# 議会だより

CONTENTS

2020.2.1 vol.65



- 2 … 12月定例会 ここに注目!
- 4 … 総務厚生委員会・産業建設文教委員会レポート
- 6 … 決算特別委員会レポート
- 9 … 12月定例会で審議された案件
- 10 … 一般質問
- 16 … 平戸のチカラ



生月町に移住し活躍する小池英幸さん、響さん

とかいせん

No.65 2020.2.1 平戸市議会だより

編集・発行：平戸市議会広報特別委員会 平戸市岩の上町1508-3

TEL22-9170 FAX22-3427 E-mail: gikai@city.hirado.lg.jp



このコーナーでは、平戸市にU・Iターンし、地域で元気に頑張っている皆さんをご紹介します。



## 平戸は子育ての環境もいい。 大好きな仕事もできて最高です!

小池英幸さん、響さんご夫婦は、共に神奈川県平塚市のご出身で、2018年に生月に移住して来られました。生月で英幸さんは漁師として、響さんはおしゃれなドーナツなどを作ってお店や直売所などで販売しています。今回は、生月で活躍するお二人を紹介します。

### ●天職である漁師との出会い

出身地である平塚市で高校卒業後、大型PCの製造など、サラリーマンとして働いていた英幸さん。10年ほどして転職し、ラーメン屋に勤めていましたが、小田原で漁師をしている友達から食べさせてもらった獲れたての新鮮な魚のおいしさに感動して、漁師という仕事に興味を持ったそうです。その後、10年ほど平塚で定置網の漁師として活躍されました。響さんは、専門学校卒業後、福岡の魚屋に勤めていましたが、弟さんが平塚で経営する居酒屋に呼ばれ、そこで数年働きました。その後、自分で店を出し、店には英幸さんが獲った新鮮な魚も出していたそうです。

### ●憧れの沖縄へ

結婚後、かねてより移住したいと思っていた沖縄の宮古島に移住。そこで英幸さんは現地で知り合った人とイカ釣りをしていましたが、収入が安定しなかったため、その後、水中観光船のガイドなどをしていました。また、響さんは子育てに専念するために、家でパンを作って直売所などで販売していました。しかし、小池さん一家が移住した後、伊良部大橋開通などにより、ほんの数年で宮古島は一気に観光地化し、その環境の変化が合わなかったことや言葉の違いへのとまどい、そして、また漁師をしたいという強い思いから、九州内で次の移住先を探しました。

### ●移住者支援が充実した平戸へ

田舎暮らしが好きだという小池さんご夫婦。移住先として平戸と大分が候補にあがっていたのですが、環境と希望に合った家が見つかったこと、そして、移住者に対する支援が充実していたことから生月への移住を決めたそうです。「引っ越してくると、区長さんが親切に声をかけてくれた、大好きな漁師の仕事まで紹介してくれました。今は定置網漁師をしていますが、職場の人もいい人ばかりで、よく声をかけてくれ、とても働き者が多いんです。」と英幸さん。響さんは自慢の腕を生かし、素材にこだわったパンやドーナツを作って生月の直売所などで販売しています。また、生月のイベントなどでも販売しており、皆さんから、おしゃれでおいしいと評判です。

### ●今後について

生月の人は優しく、面倒見もよく、とても住みやすいというお二人。英幸さんは、「仕事に早く慣れて生月で大好きな漁師を続けていきたい。若い人にももっと漁師の魅力を知ってもらい、漁師になる人が増えればいいと思う。」響さんは、「生月は自然が豊かで子育ての環境に適している。これからは、移動販売などにも挑戦し、子どもたちにパンがいっぱい並んでいるところを見せてあげたい。」と今後の目標を語っていただきました。



### 広報特別委員会

委員長	池田	稔巳
副委員長	松尾	実
委員	井元	宏三
委員	近藤	芳人
委員	山崎	一洋
委員	山本	芳久

新メンバーによる議会だよりはいかがでしたか？  
今回から表紙と裏表紙で「平戸にU・Iターンして魅力的な活動をされている方々」をご紹介します。この地を目指して移り住んだ方の視点はともホシティブで新鮮です。今回の小池さんご夫婦はまさにそれ。「足るを知る」ご夫婦に我々もハッとさせられることしばしばでした。  
前から住んでいる我々は、ものねだりやあきらめの先入観でしか周りが見えなくなっているかもしれません。「鎖につなぐ」サカサの象が小さな杭を引っかけて逃げないのは、とつても小さいときに同じような杭につなぐて逃げきれなかった思い込み」という話を思い出します。  
このシリーズが多くなることを「鎖を揺らす」きっかけになることを期待しています。  
(近藤 芳人)

編集後記

